

災害後の差別とその研究： 原発事故と新型コロナウイルス感染症



生活を脅かすほどの大事故や災害が生じたとき、人々の間で偏見や差別が見られることがある。本講演では、講師が行った調査から、福島第一原発事故と新型コロナウイルス感染症のパンデミックに関連した差別について、データや知見を紹介する。災害時には社会の結束が高まるといった心理学的過程も見られる一方で、実際に差別を経験する人が後を絶たない。どのような差別が見られるのか、またそれらがどのように生じて、どのような解決を考えられるのか、講演を通して考察する。

講師ご紹介

小林智之 博士(心理学)

福島県立医科大学 医学部災害こころの医学講座 助教。

社会的認知や集団間関係の観点から集団間葛藤の緩和方法に関する研究に従事。大阪生まれ。

日時: 2022年10月17日(月)午前10:00~12:00

会場: 大阪大学吹田キャンパス人間科学研究科本館
1Fインターナショナルカフェ(オンライン併用)

※参加人数には制限がありますので、メール
題目に「講演参加申し込み」と記載の上、事前
に①氏名、②Emailアドレス、③参加方法(会
場 or オンライン)を下記の参加申し込み先ま
でお知らせください。

オンラインの接続方法は参加申し込み後にお
送りします。



参加申し込み・お問い合わせ先

大阪大学感染症総合教育研究拠点科学情報・公共政策部門
志水美佳 shimizu@cider.osaka-u.ac.jp

主催: 大阪大学感染症総合教育研究拠点科学情報・公共政策部門
社会技術ユニット
大阪大学人間科学研究科社会心理学研究室
助成: 日本財団

